反応ガス濃度変調と温度可変質量分析によるコバルト酸化物クラスターの水素還元反応の観測

(東大院総合) ○宮島 謙・真船 文隆

Reduction of the cobalt oxide clusters by hydrogen observed by concentration alternating of the reactant gas and the variable temperature mass spectrometry (*School of Arts and Sciences, The University of Tokyo*) OKen Miyajima, Fumitaka Mafuné

Cobalt oxide clusters were prepared by laser vaporization of a Co metal target in the O_2 seeded carrier gas. Clusters were passed through an extension tube where its temperature was regulated and reacted with D_2 gas at the end of this tube. In the temperature range of 600-1000 K, $Co_3O_4^+$ was disappeared by the reaction with D_2 gas. At the same time, $Co_3O_3^+$ was decreased and $Co_3D_2O_3^+$ was appeared as the reaction product. The absence of $Co_3O_2^+$ at 1000 K indicates that the activation barrier for the D_2O release from $Co_3D_2O_3^+$ is high.

Keywords: Thermal desorption, Mass spectrometry, Cluster

これまで様々な気相金属酸化物クラスターについて、加熱に伴う酸素脱離から安定な組成と温度の関係を調べてきた。本研究では酸化物クラスターの還元のされ易さが組成と温度とどう関係しているかを調べる目的で、水素による還元反応を組成・温度に着目し質量分析法で観測した。系中に残った不純物の H_2O の影響を除くため D_2 ガスを用いた。コバルト酸化物クラスター Co_nO_x +は、酸素を 200ppm 混ぜたヘリウム中

でコバルト金属をレーザー蒸発することで生成した。このクラスターが含まれたヘリウムキャリアガスを、温度制御(室温 \sim 1000 K)した加熱管に通したのち、出口で D_2 ガスパルスを噴射する場合としない場合を周期的に切り替えながら質量スペクトルを測定した

Fig. 1 に $Co_3O_x^+$ クラスターと D_2 の相対強度 の温度変化を酸素原子数ごとに並べて示した。温度上昇させながら D_2 ガスを off, off, off, on, on を 1 サイクルとして連続測定を行ったため反応による変化は凸凹となって表れている。 D_2 ガス無し(\blacksquare 点)では、 $Co_3O_3^+$ と $Co_3O_4^+$ が強く観測された。 D_2 ガス有り(\bigcirc 点)では、 $Co_3O_4^+$ は大きく減少し、また $Co_3O_3^+$ も減少した。600 K 以上で水生成の反応が逐次的に進行したためと考えられる。

 $Co_3O_4^+ + D_2 \rightarrow Co_3O_4D_2^+ \rightarrow Co_3O_3^+ + D_2O\uparrow$ $Co_3O_3^+ + D_2 \rightarrow Co_2O_3D_2^+ \times Co_3O_2^+ + D_2O\uparrow$ 反応で新たに $Co_3D_2O_3^+$ が生成したが、より 還元された組成の有意な増加はなかった。下 の式の D_2O 分子の脱離は、活性化障壁が高く 1000~K~でも進行しなかったと考えられる。

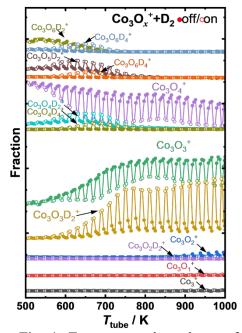


Fig. 1. Temperature dependence of the abundance ratio of $Co_3O_xD_y^+$ clusters. Open and filled circles correspond to D_2 gas injection on and off, respectively.